

『子どもと舞台芸術大博覧会 あそび☆あーと体験広場 ワークショップ見本市』

- 2017年7月29日(土) ① 14:00~15:30 ② 16:00~17:30 ● オリンピックセンター カルチャー練 小練習室 35
- 参加者・人数: ① 幼児親子1組 小学生6名 大人4名 (3兄弟+母祖母祖父) / ② 小学生(低)1名 小学生(高)5名
- 講師: 中根久寧 上村岳生 ほか玉川大太宰ゼミ生5名
- 主催: 子どもと舞台芸術-出会いのフォーラム実行委員会

■ トイレットペーパーの森

● ペパピポ人形を作る

A4の紙3枚と輪ゴム2本で作成。

● ペパピポを連れてストップ&ゴー

ペパピポを動かしてみる 手を振る あいさつ 床につけてあるく・とまる ジャンプ(人間も)

● トイレットペーパーの道(以降①の回と②の回で展開が異なる)

① 車座になり合図で中心に向けて転がし、できた道の上でペパピポを歩かせる。出会ったらあいさつ。ペパピポでじゃんけん。負けたら道を譲る。

② 部屋の隅に1列に並び、誰が遠くまで転がせるかチャレンジ。(3回戦までする)

○ 休憩中にスタッフが養生テープでトイレットペーパーを壁に貼り森にする。(②では子ども達も手伝いOK)

②では待ちきれない子ども達に「1分の長さをカウント」してもらう。

● トイレットペーパーの森

探検隊長を先頭にペパピポと一緒にまたいだりくぐったりして森を探検。白いつたにさわるとしびれてしまうので注意。途中探検隊長からこの森がなぜ白いのかの秘密を聞く。

① 色の木

色の葉(折り紙)をつけた木が立っている。木に触れないように葉を落とす方法をみんなで考える。全員で協力して葉を“吹いて”落とす。

② 森の主

森の主がひとりじめしている色を取り戻す。森の主は目が悪いが、動いているもの・白いつたに触れているものを見つけると森の入口まで戻ってしまう。後をむいて色探しの呪文を唱えている間に近づき、背中にタッチし眠らせる。(だるまさんが転んだのルール)

● 服を作る すみかを作る

色を持っていると、もうつたに触ってもしびれないですむ。森の中の好きな場所でペパピポの服を作る。他にも家や秘密基地などを自由にする。

● 後片付け

感想を聞いた後、「壊せ!」のかけ声で森を壊して片付ける。



写真左側は
①回目、
右側は
②回目



道を作る



出会ったらじゃんけん



転がし競争



森の中で服作り



森の中でだるまさんが転んだ



さまざまな造形物ができあがる



絶賛破壊中



絶賛破壊中

わくわく造形ワークショップ

- 日程：2017年9月22日（金）10：00～11：00 ●会場：荻窪2丁目集会所
- 参加者・人数：幼児（2～3才）と保護者 6組8名
- 講師：中根久寧 ●主催：ぽかぽか☆乳幼児ワークショップ

■へんてこ森のへんてこな木

●準備

部屋にへんてこな木をセッティングしておく幹はダンボール。枝葉はスズランテープ。
(スズランテープは部屋中にはりめぐらせておく。また、適宜下にたらししておく。床上50cmから1mぐらい)
木の脇の壁は模造紙を張っておく。

●へんてこもりにいこう

保育園・幼稚園の裏にある、へんてこな木が生えているへんてこもりにいこう。
森の真ん中にはへんてこな木がある。
ここにはいろんな果物がなっていて、いろんな動物や虫がすんでいる。
どんなものになっているだろう？いるんだろう？

想像したものを、色ガムテープ、or カットニングシートで作ろう。

そして、これはどこにある（いる）のだろう。好きな場所に貼ったり、ぶら下げたりしよう。

さらに種類や仲間を増やして貼っていこう。

※ガムテープを切る・カットニングシートの裏紙をはがしたりするのは保護者がサポートします。

●お弁当

素敵になったへんてこ森の中でお弁当を食べよう。

※自分で作ったものは帰りに切りはがして持ち帰ってOKです。

<スタッフから>

幼児中心なので自分で作るほか、作ってもらう場面も多くありましたが、まずは素材や工具と格闘し作る楽しさを感じられると良いなと思っています。

保護者の方も工作を楽しんでいただけたと思います。

また、こども達にとっては、木の幹に穴やトビラをつけたのが想像を刺激したようです。

今回は吊るす方には意識が向かず、木の幹に貼るのが中心でした。

しかし、あちらこちらからスズランテープぶら下がっているだけで不思議な空間になって、その中で楽しく工作遊びができました。



乳児もたのしい？



へんてこな木の幹（ダンボール）と枝（スズランテープ）



キノコとくだもの

トビラの奥にはウサギとピアノとぶどう

ペパビボアートポート in いたばし 『ふしぎないきもの・ふしぎなまち・不思議な世界をつくろう、あそぼう!』

- 日程：2017年11月19日（日）14：00～15：30 ●会場：板橋区 下赤塚駅前集会所
- 参加者・人数：幼児親子・小学生 29名
- 講師：中根久寧・下川涼子 ●主催：アートインライフ ●共催：こども劇場いたばし

■へびの小学校

●読み聞かせ 『へびのクリクター』トミー・ウンゲラー（著）

●子へび製作

フランスパン袋でへびを作る。幼児用にはハーフサイズの袋を用意。

口を作り、目玉シールを貼る。身体をガムテープで装飾。（シッポは養生テープで仮止め）

○1年生（右手からひじまで）[身体を動かす練習] 最初につながって長さくらべ。

●ミラーリング

ABの2人組になって向かい合う。 ※Bの人は左手にはめ直す。

AがBのまねをして動く。手（へび部分）だけではなく、しゃがんだり回ったり全身を使う。

AB交代して動く。最後は主導を適宜入れ替えながら動く

●3ポイント

床との接地面が2人であわせて3点（5点や7点）になるようにポーズを作る。

○2年生（右手から左手まで）[算数と国語] 最初につながって長さくらべ。

●へびのからだで作る形（両手を使って作る）

2人で作る数字（0、1、7、8、2など）

4人で作る形（長い、縮んだ、のびた、むすばれた、やわらかくなった）

10人[3チームに分かれる]で作る形（ガタガタ、ふにゃふにゃ、ドロ〜などのオノマトペで）

○3年生（右手から左足まで）[体育と音楽] 最初に寝転がってつながって長さくらべ。

シッポを付け替えて左手の甲に貼る。

●へびダンス

全身を使って動かす練習。

曲に合わせて様々なダンス。

エアロビックな曲から始まって、なめらかな曲、民族音楽の不思議な調べ、明るいパレード、変なスローテンポの曲、最後はディスコティックな曲で締め。



『へびのクリクター』



つながって長さくらべ



1年生 ミラーリング

3ポイント



2年生 数字

言葉オノマトペ



3年生 準備運動

ダンス

わくわく造形ワークショップ

- 日程：2018年1月19日（金）11：00～12：00 ●会場：荻窪2丁目集会所
- 参加者・人数：幼児（2～3才）と保護者 6組12名
- 講師：中根久寧 ●主催：ぼかぼか☆乳幼児ワークショップ

■あやつりペット

●マラカス作り

紙コップの口を平らにつぶして、中に豆などをいれて止め、シールやテープ、折りガミなどで装飾。

●イヌマラカス作り

イレットペーパー芯2本で1本は胴体（中に豆などをいれてマラカス）を作る。残りの1本を切って片方を頭にする。もう片方は更に4等分して足にする。胴体の四隅に足をとめる。胴体の端に紐を止め、頭をつなげて、それがリードになる。シールやテープ、折りガミなどで装飾。目もつける。シッポをつけても良い。

●散歩

別室に野山を作る。模造紙で野原・池・山、ダンボールで1本橋やトンネルなどを造形して床に貼る。子ども達は完成したイヌマラカスを連れて散歩。「さんぽ」などの曲にあわせて、ペットを連れて行進。親はマラカスを振ってリズムを刻む。

●犬小屋作成（時間があれば）

厚紙（A4～八つ切りサイズ）1組に2枚配布。

これをベースに箱にしたりドームにしたりする。それを折りガミなどで装飾してそれぞれの犬小屋にする。



<スタッフから>

身近な素材から簡単にできてしまうのが保護者には驚きだったようです。（ドラマートの中では複雑な工作の部類に入ります）子ども達は豆を入れる、イヌを装飾するなど1つ1つの作業に集中し、保護者とコミュニケーションをとりながら作り上げました。紐を引っ張ってイヌをお散歩はとても楽しいようで、一本橋を渡らせたり、トンネルを何度もくぐったりしていました。犬小屋までは作れませんでした。片付けも丸めた模造紙で遊んだり最後まで楽しみました。



トイレットペーパー芯の切り方・組み方の説明



豆をコップに入れてマラカス作り



セロテープをに興味あり



ペットとお散歩



それぞれのペット

『Poco Poco Festa 2018 ～ステージアートのおもちゃ箱～』

●2018年2月4日(日) ①11:10～12:30 ②14:30～15:50 ●パルテノン多摩 学習室

●参加者・人数:①幼児親子と小学生 20名 ②幼児親子と小学生 21名

●講師:中根久寧 神山一郎 玉川大太宰ゼミ生(上村岳生 高橋誠司)

●主催:認定NPO法人多摩子ども劇場・公益財団法人多摩市文化振興財団

後援:多摩市・多摩市教育委員会・八王子市・八王子市教育委員会
協力:東京都・子どもたちと芸術家の出あう街実行委員会

■トイレットペーパーの森

●ペパピポ人形を作る

A4の紙3枚と輪ゴム2本で作成。

●ペパピポを連れてストップ＆ゴー

ペパピポを動かしてみる 手を振る あいさつ 床につけてあるく・とまる ジャンプ(人間も)

●トイレットペーパーの道

車座になり合図で中心に向けて転がし、できた道の上でペパピポを歩かせる。出会ったらあいさつ。ペパピポでじゃんけん。負けたら道を譲る。

○休憩中にスタッフが養生テープでトイレットペーパーを壁に貼り森にする。

②では待ちきれない子ども達に「1分の長さをカウント」してもらおう。

●トイレットペーパーの森

探検隊長を先頭にペパピポと一緒にまたいだりくぐったりして森を探検。白いつたにさわるとしびれてしまうので注意。途中探検隊長からこの森がなぜ白いのかの秘密を聞く。

色の葉(折り紙)をつけた木が立っている。木に触れないように葉を落とす方法をみんなで考える。全員で協力して葉を“吹いて”落とす。

●服を作る

色を持っていると、もうつたに触ってもしびれないですむ。森の中の好きな場所でペパピポの服を作る。

●後片付け

感想を聞いた後、「壊せ!」のかけ声で森を壊して片付ける。

<スタッフから>

全体オープニングでポコフェス参加者の前でプログラム紹介。

ペパピポ人形の紹介と、トイレットペーパーを転がすパフォーマンスをしました。

(すかさず会場から「家でやったら怒られることだ」の声が上がりました)

1回目は抽選。参加希望者が非常に多く2回抽選をして人数を絞り込んだそうです。

そのため10分以上遅れて開始(実質75分)

2回目は先着順。1時間以上前から並んでいたため30分前に開場。トイレットペーパーを転がしたりして自由に遊んでもらいました。

反省点としては、マスキングテープが壁にほとんどつかなかったこと。(絆創膏の方が粘着力が強く壁に粘着)

2回目は追加の絆創膏と、照明器具カバーの鉄枠を利用(脚立使用)して対応しました。



オープニング



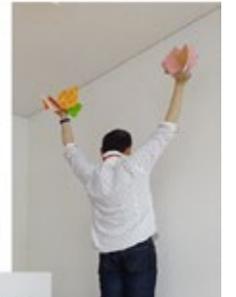
待ち時間にトイレットペーパーで自由遊び



道を作って歩く



ツタをくぐって森の奥に探検



みんなの協力で色の葉を「吹いて」落とす



道を作って歩く



ツタをくぐって森の奥に探検



みんなの協力で色の葉を「吹いて」落とす



道を作って歩く



森の中で服作り



今回の作品たち



今回の作品たち

文化庁委託事業「平成29年度戦略的芸術文化創造推進事業」『うごいてつくってなりきって 体験ワンダーランド』
 「地方における青少年等のためのワークショップ」

- in 多賀城 2018年2月10日(土) ① 10:30~12:00 ② 13:00~14:30 宮城県多賀城市文化センター
 - in 岩沼 2018年2月11日(日) ③ 10:30~12:00 ④ 13:00~14:30 宮城県岩沼市玉浦コミュニティセンター
 - in くまもと 2018年2月17日(土) ⑤ 10:30~12:00 ⑥ 13:00~14:30 熊本県熊本市食品交流会館フードパル熊本
 - in 御船 2018年2月18日(日) ⑦ 10:30~12:00 ⑧ 13:00~14:30 熊本県熊御船なかギャラリー
 - 参加者・人数：① 24名(幼児親子) ② 26名(幼児親子と小学生) ③ 24名(小学生) ④ 20名(幼児親子)
 ⑤ 16名(小学生・大人(3人)) ⑥ 16名(幼児親子) ⑦ 7名(小学生・大人(1人)) ⑧ 4名(幼児親子・小学生・大人)
 - 講師：中根久寧①~⑧ 高橋諒多①~④ 神山一郎⑤~⑧
 - 主催：文化庁/子どもと舞台芸術出合いのフォーラム実行委員会
- 協力：(特) みやぎ県子ども・おやこ劇場/塩釜こども劇場/仙台若林子ども劇場/石巻子ども劇場/大崎親子 De 劇場
 協力：(特) みやぎ県子ども・おやこ劇場/岩沼おやこ劇場 後援：岩沼市 岩沼市教育委員会 エフエムいわぬま
 協力：NPO 法人熊本県子ども劇場連絡会 後援：熊本市教育委員会
 協力：NPO 法人熊本県子ども劇場連絡会 後援：御船町教育委員会

■トイレットペーパーの森

①②④⑥⑧ ペパピポ人形を作る。動かしてみる。トイレットペーパーの道を作る。道を歩いて出会ったらジャンケン(ペパピポのポーズでグーチョキパーを考える)。森の入口についたら休憩(その間にスタッフでトイレットペーパーの森を作る)。探検隊長について森に触らないように冒険。森の奥にある色の木の葉を触らずに落とす方法を考えよう。森の中で手に入れた葉(折りガミ)で服を作ったり、家をつくったりしよう。

③⑤⑦ (小学生向け) ペパピポ人形を作る。動かしてみる。一番遠くまで転がせたトイレットペーパーが森に続く道。森の入口についたら休憩(その間にスタッフでトイレットペーパーの森を作る)。探検隊長について森に触らないように冒険。森の奥にいる森の主から色を取り返せ(「だるまさんがころんだ」で近づいて、背中をタッチして眠らせる)。森の中で手に入れた葉(折りガミ)で服を作ったり、家をつくったりしよう。

<スタッフから>

ダンス・殺陣などの4プログラムを平行して開催。全体のオープニングがあり、そこで活動の説明、また、全体エンディングで作った人形の紹介を行なった。

【多賀城】

他のプログラムより参加希望が多く多めの人数で活動。1/3は子劇以外の参加希望者。

①は「吹いて」色の木から落とすという基本パターン。

②は「木にお願いする」という新しいアプローチが出ました。

参加者の保護者がかなり手の込んだ装飾をしていて、子どもはそれを誇らしく自慢する場面もいくつか見受けられました。

【岩沼】

③は小学生向けの森の主パターン。真剣にやった「だるまさんがころんだ」のあとで緊張が解けたせいか、森をすべて破壊! 服を作ると同時に、森も修復しましたが、女子は人形の服を作るのに熱中。男子は人形をほったらかしで、森を作るのに集中していました。

④は2~3才の幼児。かなり幼いので、ジャンケンは無し。色の木から葉を落とす方法は、「足を踏み鳴らして揺らして落とす」でした。

【くまもと】

喫茶室というなかなか面白い場所。トイレットペーパーのほり方も変わった形になりました。

⑤の転がし競争は4年生が一番。ことあるごとに「トイレットペーパーをこうやって使うのは無駄遣いだ」と言っていた子達ですが後半はすっかり忘れて遊んでいました。着付けができるように着物をちゃんと作った子。釣り竿のギミックがある子。着替えられる様にした子など、みんな工夫を凝らしていました。

⑥は幼児親子でゆっくりした活動でしたが、人形の装飾は色々と凝っていました。顔をしっかり作ったり、お姫様に城(家)を作ったり、ハンモックを作り込んだりしていました。色の葉を手に入れる方法は「木をびっくりさせる」でした。

【御船】

参加者は少なめなので基本とは少し違う対応で展開。

⑦転がし競争の勝者はおばあちゃん。森を作る際には子ども達にも手伝ってもらって完成させました、すると隣は別の活動中にもかかわらず、子ども達はふすまを開けてしまいました。自分たちが作った作品としてみんなに見て欲しいという欲求が高まった結果だと思います。

⑧幼児の動きや希望に合わせて、トイレットペーパーで色々遊びながら、進めていきました。大人をぐるぐる巻きにしたり、トイレットペーパーで埋めたり、かなりやりたい放題に遊びました。色の葉を落とす方法は「木に巻き付けたトイレットペーパーを引っ張って、まわして揺らして落とす」という作戦。人数が少ないから対応できるアプローチですがなかなか画期的な方法でした。

★各森の張り方の違い



多賀城 午前 幼児親子



多賀城 午後 幼児親子~小学生



岩沼 午前 小学生



岩沼 午後 幼児親子



くまもと 午前 小学生



くまもと 午後 幼児親子



御船 午前 小学生



御船 午後 幼児親子

ベバビボアートポート 『ふしぎないきもの・ふしぎなまち・不思議な世界をつくろう、あそぼう!』
inいたばし

- 日程：2018年2月25日（日）14：00～15：30 ●会場：板橋区 下赤塚駅前集会所
- 参加者・人数：幼児親子・小学生 26名（だいたい半々2年生まで）
- 講師：中根久寧・高橋諒多 ●主催：アートインライフ ●共催：こども劇場いたばし

■ピンチアニマルの国

●導入 好きな動物は？ ミステリーアニマル紹介。（ハリモグラ）

●ピンチアニマル

色画用紙をぐしゃぐしゃにする。適当にへんな形にして、2本のピンチ（洗濯バサミ）をはさんで足にする。

●国決め

自分の作った動物がどんな生き物か想像。どんな特徴？食べ物？

どの色の国に住みたいか考えて、5つのテーブルに分かれる。

（テーブルにはそれぞれ白、青、緑、茶、黄の色布や模造紙、折りガミなどが置いてある）

混み工合を考慮して国を移動してもOK。

●ピンチアニマルの国

集まった人達で話し合い、どんな国か決める。（気候、地形、名物、国名）

用意された材料で地形、植物、家、建物などを作っていき。また名物も作っておく。

●交換所

別のテーブルで交換所が開かれる。様々な色・模様折りガミや、紙コップやトレイなどが用意されている。

名物を作って持っていきと、それは何か？特徴は何か？何が欲しいのか？など講師に質問される。

そして、それが気に入ったら物々交換してくれる。（キラキラ折りガミは倍の名物が必要）

●世界巡り

みんなで国巡りをする。その国の人が説明をし、他の国の人は紹介を一緒に聞く。

お迎えに来た保護者たちも観光旅行者として入ってもらい、色々な国の紹介を受ける。

<スタッフから>

自分たちの居場所を作り込む子達。名物を色々考えて作る子、不思議な国の名所や特徴を作る子など、思いおみの関わり方で工作していました。それらがすべて“あり”の空間になっていました。そして、みんなで1つの家をつくったり、幼児が小学生の行動を見て作り出す光景がなどありました。異年齢のグループ活動であることが刺激を生んだのだと思います。

交換所には、交換がしたくてとにかくたくさんいい加減につくってくる子。丁寧に作り込んだものを持ち込み交換していく子（詳しく聞くと色々な設定も考えてありました）。変な形だと突っ込むと、そこが特別だと説得にかかる子。また、国に交換所の情報（何色がある。出来が悪いと交換してくれない。など）を持ち帰って、嵩ましようとか戦略を練る子ども達もいました。

交換所に持ち込まれたものを更に交換して持っていくのもOK。手放したくない逸品（地球を12週でできる飛行機）を交換したのに、それを別の子が持ち帰ってしまっって残念そうにしていた子が、別の子があまりにもうれしそうにそれで遊んでいるのを見て、誇らしげな顔になっていたという話をスタッフから聞きました。

本当に様々なコミュニケーションが生まれた活動になりました。



【南極】 青くそびえる家がある。ウミヘビ、イッカク、サカナなど海の生き物が豊富にいる。



【雪の国】 雪山。寒い。ホワイトライオンがいる。山のてっぺんに登れる。



【チーズ砂漠の国】 暑い。大テントの中にみんな住んでいる。家具などしっかり作られている。チーズスティックの木も生えている。



【森の国】 暑くてカラカラ。木がいっぱい生えている。四角いキャベツが名物。



【太陽の国】 暑い。ワーブホールがある。火の実が名物。



【交換所】 手前には交換した各地の名物も並んでいる。

『Learn for Life 2018 (第1回東京国際教育祭) ~学びを楽しもう~ LFL ワークショップの森』

- 2018年3月26日(月) 14:00～15:30 ● 広尾学園中学・高等学校 M2-2(2F)
- 参加者・人数: 幼児1名 親3名 小学生2名 計7名
- 講師: 中根久寧 神山一郎
- 主催: Learn for Life 2018 事務局 『LFL ワークショップの森』 運営クルー (ワークショップデザイナー23期生のネットワーク)

■ トイレtpペーパーの森

● ペパピポ人形を作る

A4の紙3枚と輪ゴム2本で作成。

● ペパピポを連れてストップ & ゴー

ペパピポを動かしてみる あいさつ 床につけてあるく ジャンプ(人間も)。じゃんけんポーズも考える。

● トイレtpペーパーの道

車座になり合図で中心に向けて転がし、できた道の上でペパピポを歩かせる。出会ったらあいさつ。ペパピポでじゃんけん。負けたら道を譲る。

○ 休憩中にスタッフとやりたい参加者で森を作る。トイレtpペーパーを壁にでマスキングテープで貼る。

● トイレtpペーパーの森

探検隊長を先頭にペパピポと一緒にまたいだりくぐったりして森を探検。白いつたにさわるとしびれてしまうので注意。途中探検隊長からこの森がなぜ白いのかの秘密を聞く。

● 色の木

色の葉(折り紙)をつけた木が立っている。木に触れないように葉を落とす方法をみんなで考える。全員で協力して葉を“吹いて”落とす。

チし眠らせる。(だるまさんが転んだのルール)

● 服を作る

色を持っていると、もうつたに触ってもしびれないですむ。森の中の好きな場所でペパピポの服を作る。他にも家や秘密基地などを自由を作る。

● 後片付け

感想を聞いた後、「壊せ!」のかけ声で森を壊して片付ける。

<スタッフから>

人数が少ない分、個々人のイメージや、やりたいことを拾える反面、全体としてはまとめるのが難しいなと感じました。

幼児が、色紙をもって森のトイレtpペーパーにさわって「もうしびれなくなった」といっていたり、講師の一郎さんにお手紙を書いてくれたりしました。また、小学生の子は、ホワイトボードに自分の想像した「トイレtpペーパーの森」をリアルタイムで描いていたりと、モノガタリ世界を堪能してくれたと思います。



会場



参加者も一緒に森を作る



トイレtpペーパーの森のある世界を描く



森を腹這いで抜けていく



こだわりで着飾ったペパピポくん

たのしく破壊